

2019年度 学生便覧 正誤表

頁	正	誤
12	②夜間主コース 昼間コースの一般教養教育科目のうち基本的で重要な科目を、夜間主コースの一般教養教育科目として開講しています。	②夜間主コース 昼間コースの副専門科目のうち基本的で重要な科目を、夜間主コースの一般教養教育科目として開講しています。
18	2)卒業要件単位 本学では、4年以上在学し、所定の単位を取得した者を卒業とし、<u>創造工学科においては学士(工学)の学位を、システム理化学科においては学士(理工学)の学位を与えます。</u>所定単位の内訳は次表のとおりです。	2)卒業要件単位 本学では、4年以上在学し、所定の単位を取得した者を卒業とし、<u>学士(工学)</u>の学位を与えます。所定単位の内訳は次表のとおりです。
19	3)履修科目の上限(CAP制) (略) また、次に該当する授業科目については、履修できる科目の単位数に含まれない科目となります。 ①教職課程授業科目(58頁)、各学科で取得できる免許・資格等に関係する科目等のうち、卒業要件単位数に含まれない科目 (略)	3)履修科目の上限(CAP制) (略) また、次に該当する授業科目については、履修できる科目の単位数に含まれない科目となります。 ①教職課程科目の「<u>教職に関する科目</u>」、各学科で取得できる免許・資格等に関係する科目等のうち、卒業要件単位数に含まれない科目 (略)
23	(3)GPA(科目成績平均値) 本学では(1)の4段階評価の他に、成績を下表のとおり点数化(GP)し、成績通知表の中に履修科目(教職課程授業科目(58頁)、他大学で実施した授業、既修得単位として認定された科目を除く。)(略)	(3)GPA(科目成績平均値) 本学では(1)の4段階評価の他に、成績を下表のとおり点数化(GP)し、成績通知表の中に履修科目(教職課程授業科目(74頁)、他大学で実施した授業、既修得単位として認定された科目を除く。)(略)
31	(3)その他の資格 1)一級建築士(建築士法) <u>創造工学科の建築土木工学コース建築学トラックの学生は、実務経験を経ることなく一級建築士試験の受験資格があり、また、当コースに開講する国土交通大臣の指定する建築に関する科目を60単位以上修得して卒業した者は、建築に関する実務経験を2年以上経ると一級建築士の免許登録資格が与えられます。</u> 2)二級建築士及び木造建築士(建築士法) <u>創造工学科の建築土木工学コース建築学トラックの学生が、(略)</u> 3)測量士(測量法) <u>創造工学科の建築土木工学コース土木工学トラックの卒業生で、(略)</u> 4)電気主任技術者(電気事業法) <u>創造工学科の電気電子工学コース及び夜間主コース電気系コースの卒業生で、(略)</u> 5)無線従事者(無線従事者規則) <u>創造工学科の電気電子工学コース及び夜間主コース電気系コースの卒業生が、(略)</u> また、<u>創造工学科の電気電子工学コースの卒業生が、(略)</u> 6)電気通信主任技術者(電気通信主任技術者規則) <u>創造工学科の電気電子工学コース、及び夜間主コース電気系コースの卒業生が、(略)</u>	(3)その他の資格 1)一級建築士(建築士法) <u>創造工学系学科の建築土木工学コース建築学トラックの学生が、当コースに開講する国土交通大臣の指定する建築に関する科目を60単位以上修得して卒業し、その後、建築に関する実務経験を2年以上経た者には、一級建築士試験の受験資格が与えられます。</u> 2)二級建築士及び木造建築士(建築士法) <u>創造工学系学科の建築土木工学コース建築学トラックの学生が、(略)</u> 3)測量士(測量法) <u>創造工学系学科の建築土木工学コース土木工学トラックの卒業生で、(略)</u> 4)電気主任技術者(電気事業法) <u>創造工学系学科の電気電子工学コース及び夜間主コース電気系コースの卒業生で、(略)</u> 5)無線従事者(無線従事者規則) <u>創造工学系学科の電気電子工学コース及び夜間主コース電気系コースの卒業生が、(略)</u> また、<u>創造工学系学科の電気電子工学コースの卒業生が、(略)</u> 6)電気通信主任技術者(電気通信主任技術者規則) <u>創造工学系学科の電気電子工学コース、及び夜間主コース電気系コースの卒業生が、(略)</u>

頁	正	誤																								
35	(2) 地方創生推進教育プログラム修了証書 所属する学科・コースの卒業に必要な所定の単位を修得するとともに、地方創生推進教育プログラムで定めた必修科目26単位、選択科目9単位以上、合計35単位以上を満たした場合に、《室蘭工業大学地方創生人材育成プログラム修了証書》を授与します。 (3) 地方創生推進教育プログラム履修方法・履修上の注意 地方創生推進教育プログラムの授業科目は一般で開講されており、履修登録は他の授業科目と同様に行います。本教育プログラムの詳細については、必修科目である『地域社会概論』の1回目の講義で説明します。	(2) 地方創生推進教育プログラム修了証書 所属する学科・コースの卒業に必要な所定の単位を修得するとともに、地方創生人材育成プログラムで定めた必修科目26単位、選択科目9単位以上、合計35単位以上を満たした場合に、《室蘭工業大学地方創生人材育成プログラム修了証書》を授与します。 (3) 地方創生推進教育プログラム履修方法・履修上の注意 地方創生人材育成プログラムの授業科目は一般で開講されており、履修登録は他の授業科目と同様に行います。本教育プログラムの詳細については、必修科目である『地域社会概論』の1回目の講義で説明します。																								
38	①共通部分のルール <table border="1"> <tr><td colspan="3">(略)</td></tr> <tr><td colspan="3">7文字目：識別コード1（必修、選択）</td></tr> <tr> <td>1：必修</td><td>2：選択</td><td>9：必修、選択以外</td></tr> <tr><td colspan="3">(略)</td></tr> </table>	(略)			7文字目：識別コード1（必修、選択）			1：必修	2：選択	9：必修、選択以外	(略)			①共通部分のルール <table border="1"> <tr><td colspan="3">(略)</td></tr> <tr><td colspan="3">7文字目：識別コード1（必修、選択）</td></tr> <tr> <td>1：必修</td><td>2：選択</td><td>9：必須、選択以外</td></tr> <tr><td colspan="3">(略)</td></tr> </table>	(略)			7文字目：識別コード1（必修、選択）			1：必修	2：選択	9：必須、選択以外	(略)		
(略)																										
7文字目：識別コード1（必修、選択）																										
1：必修	2：選択	9：必修、選択以外																								
(略)																										
(略)																										
7文字目：識別コード1（必修、選択）																										
1：必修	2：選択	9：必須、選択以外																								
(略)																										
43	※注 一級建築士（実務経験2年）の免許登録資格の取得にあたっては、上述した建築学トラック科目の選択科目（なお、卒業要件単位の選択必修8単位は除く）から、8単位以上取得すること。なお、一級建築士試験の受験資格は、大学卒業後に実務経験がなくとも与えられます。	※注 1級建築士（要実務経験2年）の受験資格の取得にあたっては、上述した建築学トラック科目の選択科目（なお、卒業要件単位の選択必修8単位は除く）、<u>あるいは、別途定めるトラック外の建築に関わる科目（指定科目）</u>から、4単位以上取得すること。																								
57	※2 人と社会に関する科目に限り含めることが可能。 <u>なお、連携教養科目については、2単位まで修得可能。</u>	※2 人と社会に関する科目に限り含めることが可能。																								
60	13 海外協定校への派遣 (略) 協定大学へ派遣する短期研修プログラムのうち、一般教養教育科目の人と社会に関する科目の履修として認められるもの（海外語学研修、海外研修）があります。 (略)	13 海外協定校への派遣 (略) 協定大学へ派遣する短期研修プログラムのうち、副専門科目の実習系科目の履修として認められるもの（海外語学研修、海外研修）があります。 (略)																								
62	■システム理化学科 <table border="1"> <tr><td colspan="3">物理物質システムコース</td></tr> <tr> <td>准教授</td><td>雨 海 有 佑</td><td>Q209室</td></tr> </table>	物理物質システムコース			准教授	雨 海 有 佑	Q209室	■システム理化学科 <table border="1"> <tr><td colspan="3">物理物質システムコース</td></tr> <tr> <td>准教授</td><td>雨 海 有 佑</td><td>Q205室</td></tr> </table>	物理物質システムコース			准教授	雨 海 有 佑	Q205室												
物理物質システムコース																										
准教授	雨 海 有 佑	Q209室																								
物理物質システムコース																										
准教授	雨 海 有 佑	Q205室																								
102	(一般教養教育課程) 第10条 一般教養教育課程の授業科目、単位数、履修方法等は、別表第3のとおりとする。	(一般教養教育課程) 第10条 副専門教育課程の授業科目、単位数、履修方法等は、別表第3のとおりとする。																								
109	【その他関連規則】 (略) ・室蘭工業大学学部学生<u>の</u>履修申告に関する規則 ・室蘭工業大学学部学生<u>の</u>履修申告実施要項 (略)	【その他関連規則】 (略) ・室蘭工業大学工学部履修申告に関する規則 ・室蘭工業大学工学部履修申告実施要項 (略)																								

【正】 15 学習目標と授業科目との関係表

訂正箇所を赤字にしています。 創造工学科ー建築土木工学コースー建築学トラック(◎:主体的に関与する ○:付随的に関与する)

学年・教育目標		授業科目名															
		1 年				2 年				3 年				4 年			
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
(A)	理工学教育	フレッシュマン英語演習(○)		英語リーディング演習A(○)		英語リーディング演習B(○)		英語総合演習(○)		TOEIC英語演習Ⅰ(○)							
		地域社会概論(○)		TOEIC英語演習Ⅰ(○)		英語コミュニケーションⅠ(○)				TOEIC英語演習Ⅱ(○)							
		微分積分A(◎)		微分積分B(◎)		微分積分C(◎)											
		線形代数A(◎)		線形代数B(◎)													
(B)	人間性	物理学A(◎)		物理学B・C(◎)													
		情報セキュリティ入門(◎)		データサイエンス入門(◎)		プログラミング入門(◎)		環境科学(◎)									
		フレッシュマンセミナー(○)								知的財産所有権(○)							
		化学・生物学概論(○)		工業物理基礎実験(◎)		電気回路基礎(◎)		電磁気学基礎(◎)		材料の力学A・B(◎)		流体力学A・B(◎)		熱力学基礎A・B(◎)		計測工学(◎)	
(C)	将来能力																
(D)	コース共通																
(E)	設計・計画																
(F)	環境・生産																
(G)	構造																
(H)	積雪寒冷地																

理工学教育 人間性 将来能力 コース共通 設計・計画 環境・生産 構造 積雪寒冷地

【誤】 15 学習目標と授業科目との関係表

創造工学科－建築土木工学コース－建築学トラック(◎:主体的に関与する ○:付随的に関与する)

		授業科目名															
学年・教育目標		1 年				2 年				3 年				4 年			
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
(A)	理工学教育	フレッシュマン英語演習(○)	地域社会概論(○)	英語リーディング演習A(○)	TOEIC英語演習Ⅰ(○)	英語リーディング演習B(○)	英語総合演習(○)	英語コミュニケーションⅠ(○)	TOEIC英語演習Ⅱ(○)								
		微分積分A(◎)	線形代数A(◎)	物理学A(◎)	情報セキュリティ入門(◎)	微分積分B(◎)	線形代数B(◎)	物理学B・C(◎)	データサイエンス入門(◎)	プログラミング入門(◎)	環境科学(◎)						
(B)	人間性	フレッシュマンセミナー(○)															
		化学・生物学概論(◎)	工業物理基礎実験(◎)	電気回路基礎(◎)	電磁気学基礎(◎)	材料の力学A・B(◎)	流体力学A・B(◎)	熱力学基礎A・B(◎)	計測工学(◎)	工学概論(◎)	現代情報学概論(◎)	確率統計(◎)	統計的データ処理(◎)				
(C)	将来能力	フレッシュマン英語演習(○)	地域社会概論(○)	英語リーディング演習A(○)	TOEIC英語演習Ⅰ(○)	英語リーディング演習B(○)	英語総合演習(○)	英語コミュニケーションⅠ(○)	TOEIC英語演習Ⅱ(○)								
		微分積分A(○)	線形代数A(○)	物理学A(○)	情報セキュリティ入門(○)	微分積分B(○)	線形代数B(○)	物理学B・C(○)	データサイエンス入門(○)	プログラミング入門(○)	環境科学(○)						
(D)	コース共通																
(E)	設計・計画																
(F)	環境・生産																
(G)	構造																
(H)	積雪寒冷地																

頁

追記・修正後の内容

現在の内容

3 本学の教育課程の概要

(1) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1) 本学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

理工学部の人材育成像に掲げる次の3つの能力「専門性と展開力」「強靱性と俯瞰力」「社会性とコミュニケーション力」を修得させるため、次のカリキュラム・ポリシーに基づき教育課程を編成しています。

①教育課程の編成

ア. 専門性と展開力

2年次後期から4年次にかけて、各学科に設置した専門コース毎に体系的なコース科目と、情報科目を設けるとともに、コース科目等は講義のほか、演習、実験、PBL、アクティブラーニング、卒業研究など様々な教育方法により教授する。

イ. 強靱性と俯瞰力

1年次後期から3年次にかけて、自然科学と情報・データを扱う基礎科目及び地域連携科目を設けるとともに、自身の専門分野と関係性の高い他の専門基礎科目を学科共通科目として設ける。

ウ. 社会性とコミュニケーション力

1年次から3年次前期にかけては、次の教育課程を編成する。

・一般教養教育として、人と社会に関する科目を設ける。

・国際コミュニケーション力の基礎として、日本人学生には英語を中心とした外国語科目を、外国人留学生には日本語科目を設ける。

・様々な授業科目においてアクティブラーニングを展開する。

②学習成果の評価

○評価方法

各授業科目の到達目標の達成度を評価すべく、授業担当教員は、授業科目の特徴を踏まえた多面的評価を行う。

教育課程編成方針	評価方法
ア. 専門性と展開力 2年次後期から4年次にかけて、各学科に設置した専門コース毎に体系的なコース科目と、情報科目を設けるとともに、コース科目等は講義のほか、演習、実験、PBL、アクティブラーニング、卒業研究など様々な教育方法により教授する。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。 ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。 ③ゼミナール及び卒業研究については、活動内容、論文、発表により評価する。 ④授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を行い、評価に活用する。
イ. 強靱性と俯瞰力 1年次後期から3年次にかけて、自然科学と情報・データを扱う基礎科目及び地域連携科目を設けるとともに、自身の専門分野と関係性の高い他の専門基礎科目を学科共通科目として設ける。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。 ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。 ③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を行い、評価に活用する。
ウ. 社会性とコミュニケーション力 1年次から3年次前期にかけては、次の教育課程を編成する。 ・一般教養教育として、人と社会に関する科目を設ける。 ・国際コミュニケーション力の基礎として、日本人学生には英語を中心とした外国語科目を、外国人留学生には日本語科目を設ける。 ・様々な授業科目においてアクティブラーニングを展開する。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。 ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。 ③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を行い、評価に活用する。 ④授業科目によっては、多面的評価を実現するため、TOEIC等の外部試験を評価に活用する。

○成績評価方法の明示

授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。

2) 本学における学習成果の評価の方針

本学理工学部における学習成果の評価の方針は、109ページに掲載しています。

9

3 本学の教育課程の概要

(1) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1) 本学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

理工学部の人材育成像に掲げる次の3つの能力「専門性と展開力」「強靱性と俯瞰力」「社会性とコミュニケーション力」を修得させるため、次のカリキュラム・ポリシーに基づき教育課程を編成しています。

ア. 専門性と展開力

2年次後期から4年次にかけて、各学科に設置した専門コース毎に体系的なコース科目と、情報科目を設けるとともに、コース科目等は講義のほか、演習、実験、PBL、アクティブラーニング、卒業研究など様々な教育方法により教授する。

イ. 強靱性と俯瞰力

1年次後期から3年次にかけて、自然科学と情報・データを扱う基礎科目及び地域連携科目を設けるとともに、自身の専門分野と関係性の高い他の専門基礎科目を学科共通科目として設ける。

ウ. 社会性とコミュニケーション力

1年次から3年次前期にかけては、次の教育課程を編成する。

・一般教養教育として、人と社会に関する科目を設ける。

・国際コミュニケーション力の基礎として、日本人学生には英語を中心とした外国語科目を、外国人留学生には日本語科目を設ける。

・様々な授業科目においてアクティブラーニングを展開する。

頁	追記・修正後の内容	現在の内容																																															
23	5 成績評価 (1) 成績評価の基準とGPA (科目成績平均値) 成績は100点法により採点し、60点以上を合格とし、秀 (90点以上)、優 (80点～89点)、良 (70点～79点)、可 (60点～69点) の4段階で評価します。また、成績を点数化 (GP) し、成績確認表の中に履修科目 (教職課程授業科目 (58頁)、他大学で実施した授業、既修得単位として認定された科目を除く。) の点数、合計点及び平均点 (GPA) を併せて記載し、学習成果を自ら分かるようにするほか、修学指導、大学による順位付けの参考データなどに利用しています。 (成績評価基準) <table><tr><th rowspan="2">得点 (100点法により採点)</th><th rowspan="2">評語</th><th colspan="2">評価</th><th rowspan="2">GP (評点)</th></tr><tr><th>達成度レベル</th><th>合否判定</th></tr><tr><td>90点～100点</td><td>秀</td><td>到達度目標をほぼ完全に達成し優秀である</td><td rowspan="4">合格</td><td>4</td></tr><tr><td>80点～89点</td><td>優</td><td>到達度目標を十分に達成し優秀である</td><td>3</td></tr><tr><td>70点～79点</td><td>良</td><td>到達度目標を概ね達成している</td><td>2</td></tr><tr><td>60点～69点</td><td>可</td><td>到達度目標を最低限達成している</td><td>1</td></tr><tr><td>59点以下</td><td>不可</td><td>到達度目標を達成していない</td><td>不合格</td><td>0</td></tr></table> (GPAの計算式) $\frac{4 \times [\text{秀}] \text{の単位数} + 3 \times [\text{優}] \text{の単位数} + 2 \times [\text{良}] \text{の単位数} + 1 \times [\text{可}] \text{の単位数} + 0 \times [\text{不可}] \text{の単位数}}{\text{全履修科目の単位数の合計}}$	得点 (100点法により採点)	評語	評価		GP (評点)	達成度レベル	合否判定	90点～100点	秀	到達度目標をほぼ完全に達成し優秀である	合格	4	80点～89点	優	到達度目標を十分に達成し優秀である	3	70点～79点	良	到達度目標を概ね達成している	2	60点～69点	可	到達度目標を最低限達成している	1	59点以下	不可	到達度目標を達成していない	不合格	0	5 成績評価 (1) 成績評価の区分 成績は100点法により採点し、60点以上を合格とし、秀 (90点以上)、優 (80点～89点)、良 (70点～79点)、可 (60点～69点) の4段階で評価します。 (2) 成績の通知 学期ごと (おおむね4月及び10月) に「CAMPUS SQUARE」及び学生支援センター内の証明書自動発行機により自分の成績を確認することができます。成績確認の時期は、その都度掲示でお知らせします。 (3) GPA (科目成績平均値) 本学では (1) の4段階評価の他に、成績を下表のとおり点数化 (GP) し、成績通知表の中に履修科目 (教職課程授業科目 (58頁)、他大学で実施した授業、既修得単位として認定された科目を除く。) の点数、合計点及び平均点 (GPA) を併せて記載し、学習成果を自ら分かるようにするほか、修学指導などに利用しています。 (点数化の区分) <table><tr><th>得点</th><th>評価</th><th>点数 (GP)</th></tr><tr><td>90 - 100</td><td>秀</td><td>4</td></tr><tr><td>80 - 89</td><td>優</td><td>3</td></tr><tr><td>70 - 79</td><td>良</td><td>2</td></tr><tr><td>60 - 69</td><td>可</td><td>1</td></tr><tr><td>0 - 59</td><td>不可</td><td>0</td></tr></table> (計算式) $\frac{4 \times [\text{秀}] \text{の単位数} + 3 \times [\text{優}] \text{の単位数} + 2 \times [\text{良}] \text{の単位数} + 1 \times [\text{可}] \text{の単位数} + 0 \times [\text{不可}] \text{の単位数}}{\text{全履修科目の単位数の合計}}$	得点	評価	点数 (GP)	90 - 100	秀	4	80 - 89	優	3	70 - 79	良	2	60 - 69	可	1	0 - 59	不可	0
得点 (100点法により採点)	評語			評価			GP (評点)																																										
		達成度レベル	合否判定																																														
90点～100点	秀	到達度目標をほぼ完全に達成し優秀である	合格	4																																													
80点～89点	優	到達度目標を十分に達成し優秀である		3																																													
70点～79点	良	到達度目標を概ね達成している		2																																													
60点～69点	可	到達度目標を最低限達成している		1																																													
59点以下	不可	到達度目標を達成していない	不合格	0																																													
得点	評価	点数 (GP)																																															
90 - 100	秀	4																																															
80 - 89	優	3																																															
70 - 79	良	2																																															
60 - 69	可	1																																															
0 - 59	不可	0																																															
109	別添、「室蘭工業大学理工学部における学習成果の評価の方針」を掲載。	(4) 成績評価に対する申し立て制度 成績評価に関する質問や疑問がある場合に、定めた期間内に担当教員に申し出る事ができます。詳しい内容については、学務課教育支援係へ問い合わせてください。																																															

室蘭工業大学理工学部における学習成果の評価の方針

令和元年 10 月 10 日 教育システム委員会決定

室蘭工業大学理工学部における教育課程の学習成果については、学位授与方針に定める以下の3つの資質や能力を最終的に達成するように構成された、各授業科目の到達度目標の達成度を評価すべく、授業担当教員は、授業科目の特徴を踏まえた多面的評価を行う。

ア.「専門性と展開力」

専門分野の知識と技術を体系的に身に付け、それらを駆使して（専門性の獲得）、様々な場面において課題を発見し、実現可能な解を見出し、社会に生かす能力（展開力）を身に付ける

イ.「強靱性と俯瞰力」

理工学の基礎知識と複数の専門における基盤的な学問の基礎知識及び情報・データを扱う基礎知識と技術を確実に身に付ける（強靱性の獲得）とともに、社会の課題を俯瞰的に見る能力（俯瞰力）を身に付ける

ウ.「社会性とコミュニケーション力」

自らが継続的に学習し、豊かな人間性の基礎となる教養（社会性の獲得）と多様な人とコミュニケーションをとり協働する能力（コミュニケーション力）を身に付ける

1. 教育・評価方法

区 分	教育方法	評 価 方 法
専門性と展開力	2 年次後期から 4 年次にかけて、各学科に設置した専門コース毎に体系的なコース科目と、情報科目を設けるとともに、コース科目等は講義のほか、演習、実験、PBL、アクティブラーニング、卒業研究など様々な教育方法により教授する。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。 ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。 ③ゼミナール及び卒業研究については、活動内容、論文、発表により評価する。 ④授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を行い、評価に活用する。
強靱性と俯瞰力	1 年次後期から 3 年次にかけて、自然科学と情報・データを扱う基礎科目及び地域連携科目を設けるとともに、自身の専門分野と関係性の高い他の専門基礎科目を学科共通科目として設ける。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。 ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。 ③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を行い、評価に活用する。
社会性とコミュニケーション力	1 年次から 3 年次前期にかけては、次の教育課程を編成する。 ・一般教養教育として、人と社会に関する科目を設ける。 ・国際コミュニケーション力の基礎として、日本人学生には英語を中心とした外国語科目を、外国人留学生には日本語科目を設ける。 ・様々な授業科目においてアクティブラーニングを展開する。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。 ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。 ③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を行い、評価に活用する。 ④授業科目によっては、多面的評価を実現するため、TOEIC 等の外部試験を評価に活用する。

2. 成績評価方法の明示

授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。

3. 成績評価基準

得点 (100点法により採点)	評語	評 価		G P (評点)
		達成度レベル	合否判定	
90点～100点	秀	到達度目標をほぼ完全に達成し優秀である	合格	4
80点～89点	優	到達度目標を十分に達成し優秀である		3
70点～79点	良	到達度目標を概ね達成している		2
60点～69点	可	到達度目標を最低限達成している		1
59点以下	不可	到達度目標を達成していない	不合格	0

4. GPA（科目成績平均値）

合格における4段階の評価のほかに、成績を上記のとおり点数化（GP）し、学生自身による学習成果の達成状況の確認、大学による順位付けの参考データとして活用する。

5. 成績情報の開示

学生に対して、学務システムを利用し、授業科目ごとの評語とGP、学期ごとのGPA、累積GPAを開示し、学生自身による確認を可能とする。

6. 評価の点検

成績評価の結果は、評価分布等を使用して、教育システム委員会において定期的に点検を行い、必要に応じて教育方法等の改善を行う。

7. 適用

この方針は、令和元年度入学者から適用し、上記2から6の方針については、平成27年度から平成30年度の入学者にも準用する。